建築バカ 小林イチローの「家造り道」 Vol.8

私くらいの年齢で「皮下脂肪寄せて集めてCカップ」と「くすっ」と軽いジョークで笑わせる綾小路きみまろと言う変な面白い人がいますよね。私、実は大ファンで今回のウンチクもきみまろさんのように少し軽い笑いをこめてタレてみたいと思います。

人の反対路線を歩んできた私、バブル期には、リフォームをメインにして活動し崩壊後は新築が事業のメインになり、またまた人の反対をやってます。(もちろん新築以外にリフォームもやっていますが…)いつもは新築に関してウンチクをタレていますので今回はリフォーム番組での楽しい話を書いてみましょう。

テレビ番組で、だいぶ前になりますが

施工前・施工後といったリフォーム番組が流行っています。

こんなこっけいな大先生がいましたよ。

ある夕方の建築現場に電灯が付いたヘルメットをかぶった施主の奥様と建築学の大先生のツーショット。いきなり屋根裏に登った大先生は手に持った懐中電灯を照らしながらのシーンです。

テレビ番組をみていた大工ならきっと…こう言います。

チワワをわだる娘に「ボーナス減ってからにしな」と言っているCMの口調で…

場面1 大先生の継ぎ方のカン違い。

図1

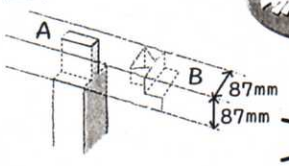
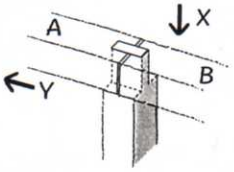


図2



場面1の解説
仕口(木の継ぎ方)には日本建築の伝統文化がぎっしり詰まっているのです。大先生が正しいと考える図2のように材木を継いだらX方向の力には確かに強いのですが、Y方向に力をいれると材料が離れてしまい弱いのです。これに対して図1は日本建築の基本である何寸かえりと言ってだいたい7、8寸離れたところで継いでいるのでとても安全に建て前が進行するんです。

場面2 木は削れば減るんです。

はしごを恐々降りてきた大先生は扱い慣れていないさしがねを持ち、柱に当て、さらに熟く奥様に語るのです。

図3

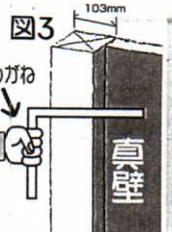


図4

場面2の解説
檜の柱は3寸5分角といって、基本寸法は105mm×105mmです。大壁【柱が壁で見えない洋間の作り方(図4)】では柱は削らないので105mm×105mmですが、真壁【柱が見える和室等の作り方(図3)】は柱をキレイにするためカンナをかけてしまうので、檜の柱の基本105mm×105mmより細くなってしまいますが、図面より柱が細いからと言って大先生の言うような決定的な欠陥というわけではありません。(ちなみに、ホームクリエでは 大壁、真壁も105mmあります。)

場面3 大先生の筋交いのスジ違い。

1階に降りてきた大先生は、またさしがねを持ち筋交いについて語り始めたのです。

図5

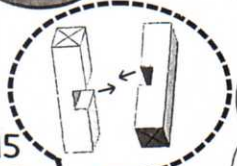
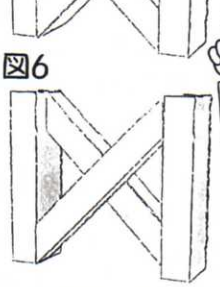


図6



場面3の解説
私が推測するに、この家を造った大工はより丈夫な家にしたくて強度計算上では使用しなくともいい、より大きな材料で筋交い(図5)を施工したのだと思うのです。

私はこの番組を見て改めて、ショー化している番組と現場の違いを感じ、正しい情報を皆様に伝えていきたいと強く感じました。(^□^簡単にテレビを信用してはいけませんよ!)

夢ハウス
ホームクリエ

ホームクリエでは、施主様の御協力を得て、新築部・リフォーム部共、完成済や施工途中の構造例等を、今回のイベントに来られない方にもご案内させて頂きますので、お気軽にTEL下さい。
3/21、22、23は現場見学会で事務所が休みのためお問合せは、下記へ
小林携帯090-7803-2247/藤木携帯090-5784-2365/小川携帯090-2751-4213

是非、ホームページを開いて見て下さい。楽しい写真と、施主さんのコメントも入れて載っています。実は、このホームページもわたくしのお客様が作ってくれています。

URL http://www.home-crea.co.jp/
E-mail homecrea@d6.dion.ne.jp

◆羽村本店／羽村市羽西2-6-9 ☎042-579-7878

＊当店ご案内＊